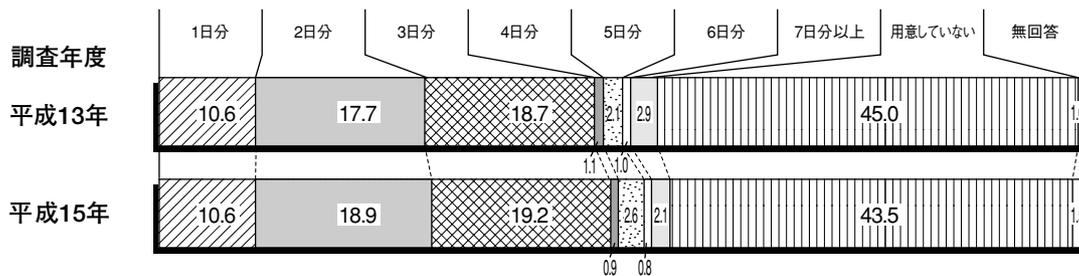
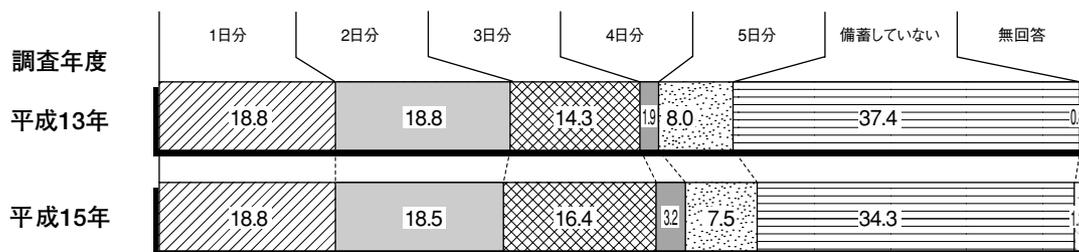


行政も、食料や飲料水をすぐには 供給できません。 家庭での備えが必要です。

Q 非常持出用として何日分の食料を備蓄していますか。



Q 何日分の飲料水を備蓄していますか。



非常持出用食料を3日以上備えている家庭は26%、
飲料水を3日以上備えている家庭は、27%でした。
いざという時に備え、各家庭で食料や飲料水を必ず準備してください。

食糧の備蓄

非常食で最低
3日分
備えて
おきたいのは
7日分



- 普段から非常食3日分を含む7日分程度の食料を準備しておく。
- 食料の点検、入れ替えを忘れずに。

飲料水の備蓄

1人1日3リットルで
3日分
(9リットル)



- 1人1日3リットルの水を最低3日分用意する。
- 市販のペットボトル入りの飲料水でもよい。定期的に使用し、順次買い替えていく。

東海地震が発生した場合、食料の供給活動が開始されるまでに、7日間ほど時間が必要となります。

東海地震が発生した場合、飲料水の供給活動が開始されるまでに、3日間ほど時間が必要となります。

日持ちのよい食品を備蓄し、定期的に交換しましょう。

主食 米・カンパン・インスタント食品など

副食 漬け物・梅干し・佃煮・缶詰など

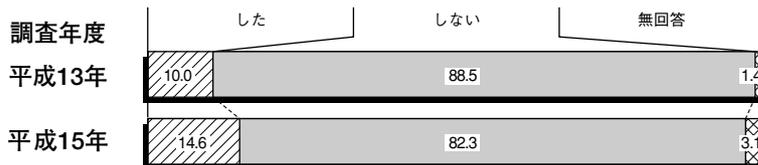
調味料 味噌・しょう油など

- いつも風呂に水をためておきましょう。
- 水洗トイレのタンク内の水も活用しましょう。

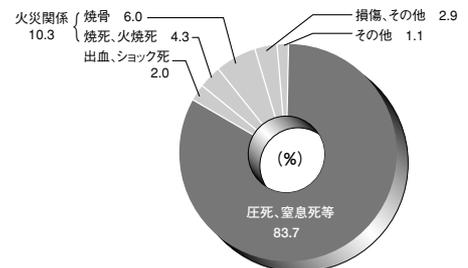
阪神・淡路大震災の死者の約8割は家屋の倒壊による圧死でした。自宅の耐震診断を行い、安全性を確認してください。



木造住宅居住者の耐震診断の実施状況



阪神・淡路大震災の死因別の状況



(兵庫県警の資料より作成)

阪神・淡路大震災では、昭和56年5月以前に建築された旧建築基準の木造住宅に大きな被害が出ました。地震で大切な命を失わないためには、地震で倒壊しない住宅にする必要があります。

そのため、静岡県では市町村と連携して、木造住宅の耐震化を促進するプロジェクト「TOUKAI (東海・倒壊) - 0 (ゼロ)」を推進しており、建築士や大工などの専門家による耐震診断・補強相談や耐震補強工事費の助成などを行っています。

詳しいことは各市町村の建築指導担当課、県建築安全推進室又は県防災情報室までお問い合わせ下さい。

耐震補強工事に補助金が出ます！

専門家による耐震診断により、「倒壊または大破壊の危険がある」と判定された旧建築基準の木造住宅を耐震補強工事する場合には、市町村から補助金が出ます。

「わが家の耐震診断」実施方法

耐震診断は、家の図面と ～ に示した各項目の診断結果(評点)をもとに行います。

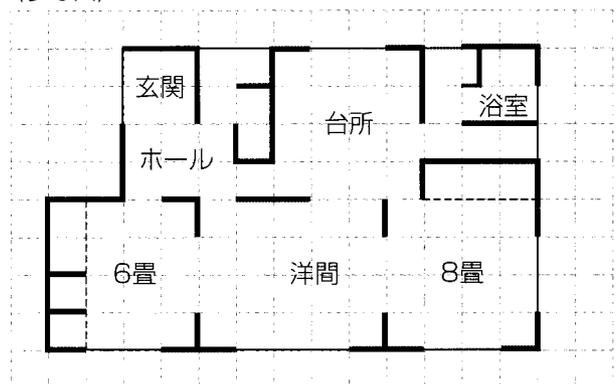
- 2階建ての場合にも、診断は1階部分だけで行います。
- 同じ項目内に該当する答えが2つ以上ある場合は、小さい方の評点を選んでください。

まず1階部分の平面図を書きましょう。

平面図の書き方は？

- 参考図のように、家の間取りが分かる程度で十分です。
- 戸やふすまをかく必要はありません。
- 窓などの開口部がない壁は太線で書いてください。

〈参考図〉

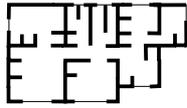


└ 2マスで1畳

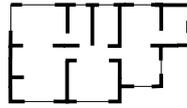
壁の割合を調べましょう。

●あなたの家の平面図と、下の5つの図を比べてください。
あなたの家の「壁の量」はどの図の「壁の量」に近いですか。最も近い図を選んでください。

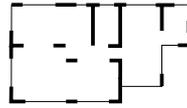
右上の参考図の
評点は
2階建てなら
1.0です。



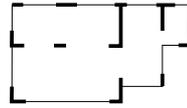
評点	2階建：1.2
評点	平屋：1.5



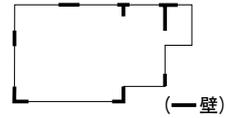
評点	2階建：1.0
評点	平屋：1.5



評点	2階建：0.7
評点	平屋：1.2



評点	2階建：0.5
評点	平屋：1.0



評点	2階建：0.3
評点	平屋：0.7

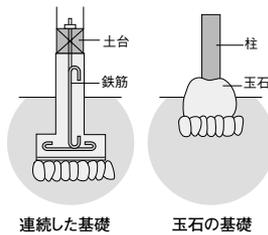
地盤と家の基礎を調べましょう。

●地盤は次の基準で判断してください。

- 良い** 岩盤、丘陵地、台地など
- 悪い** 田んぼや沼の埋立地、大型車が通ると家が震動する場合など
- 普通** その他の場合

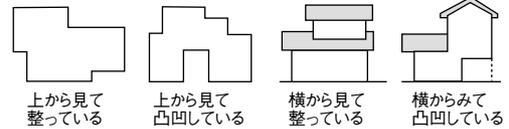
基礎	地盤	良い	普通	悪い
鉄筋コンクリート造の連続した基礎		1.0	0.8	0.7
鉄筋がないコンクリート造の連続した基礎		1.0	0.7	0.5
ひび割れのあるコンクリート造の連続した基礎		0.7	0.5	0.4
その他の基礎（玉石、ブロックなど）		0.6	0.4	0.3

基礎の形は、下の図を参考してください。



建物の形を調べましょう。

●あなたの家と次の4つの図を比べて、建物の形はどれに近いかが判断してください。

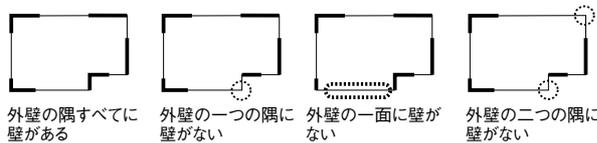


1階部分に壁のない駐車場
やピロティがあれば
0.8です。

診断項目	評点
上から見ても、横から見ても整っている	1.0
上から見て凹凸している	0.9
1階に壁のない空間がある	0.8

壁の配置と、すじかいがあるかどうかを調べましょう。

●外壁の隅の部分に、壁があるかどうか調べましょう。
次の4つの図を参考にして、評点を求めてください。



●次に、建物のどこかにすじかいがあるかどうか、調べましょう。
一か所でもすじかいが入っていれば「あり」（評点1.5）としてください。
また、入っているかわからない場合は「なし」（評点1.0）としてください。

■壁の配置

診断項目	評点
外壁の隅のすべてに壁がある	1.0
外壁の一つの隅に壁がない	0.9
外壁の一面に壁がない・外壁の二つの隅に壁がない	0.7

■すじかい

診断項目	評点
すじかい「あり」	1.5
すじかい「なし」	1.0

建物の老朽度を調べましょう。

●あなたの家の老朽度（いたみ具合）を判断して、評点を求めましょう。
●特に、建物の北側部分や、風呂場周りなどを点検してみましょう。

■建物の老朽度

診断項目	評点
健全（新築時の良い状態が続いている）	1.0
柱が傾いたり、戸やふすまのたてつけが悪い	0.9
腐ったり、シロアリに食われている	0.8

判定表

～ の評点をすべて掛け算して「総合評点」を求め、右の判定表であなたの家の耐震性を確認してください。

総合評点	判定	今後の対応
1.5以上	安全です。	家庭でできる防災対策を進めてください。
1.5未満0.7以上	専門家の診断を要します。	専門家による診断を受け、耐震性を確認してください。
0.7未満	大破又は、大破壊の危険があります。	専門家による診断を受け、補強方法について相談してください。

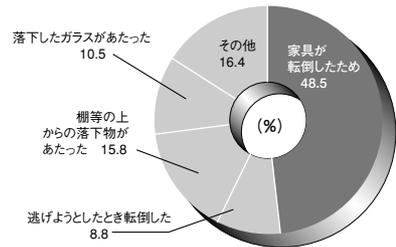
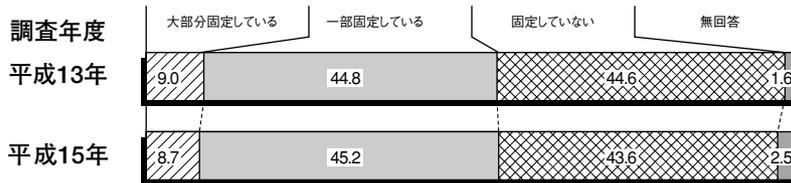
総合評点 × × × × × = 総合評点

地震発生時に転倒・落下する家具や家電は非常に危険な凶器となります。 自宅の家具類の固定は急務です。

Q

地震に備えて家具類の固定をしていますか。

阪神・淡路大震災のケガをした人の原因



●神戸市消防局調査 (平成7年2月)

阪神・淡路大震災では、家具類の転倒による死傷のほか、家具類の下敷きになり、屋外に避難できずに延焼火災の犠牲となったケースもありました。家の中の地震対策も万全を心がけましょう。

家具類の固定は、家庭の対策でもっとも基本的なものです。
みなさんのちょっとした工夫や日曜大工でも、十分な安全対策ができます。

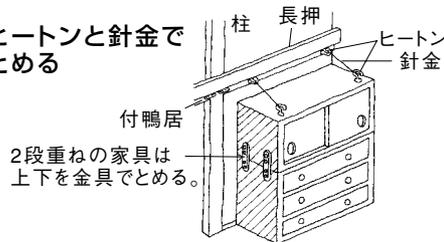
確認しましょう

- ・重い家具は寝室に置かない。
- ・重い荷物は高いところに置かない。
- ・家具の配置を考えて安全なスペースを確保。

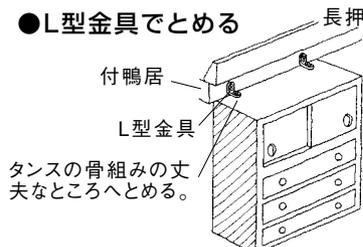
家具類の固定方法(例)

背の高い家具は、鴨居に針金やL型金具でとめる

●ヒートンと針金でとめる

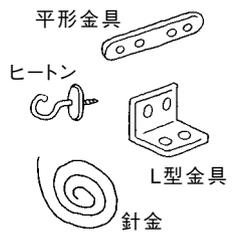


●L型金具でとめる

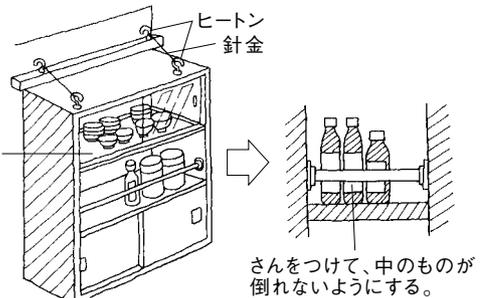


やわらかい敷物を敷いて中のものがすべり出さないようにする。

用意するもの

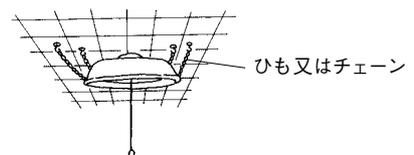


●食器戸棚のとめかた



●つり下げ型照明器具のとめかた

器具の4すみをひも又はチェーンでとめて器具が天井にふれないようにする。



・壁に金具やヒートンを取り付ける場合には、間柱などの下地があるところをみつけて取り付けましょう。